

3年間、国際教養コースで学んで思ったことは、「主体性」が学びには不可欠だということです。国際教養コースでは、哲学、Academic Skills、Practical English、協働探究をはじめディスカッションをする場面がとて多く、先生が授業を作るのではなく、先生と生徒の双方によって授業が成り立つという感覚が自分の中にはありました。クラスメイト一人一人が考え、周りの意見も取り入れて自分の考えだけが正解ではないということを学び、自分にはなかった考え、物の見方を知ることで深い思考ができるようになりました。国際教養コースでの授業の効果はもうすでに ICU の入学前講座でも実感することができました。自分の意見をただいだけではなく、周りの意見に共感や疑問を示し、1つのトピックを展開していくと最終的に深い結論に辿り着くことができました。

6年間、毎日が楽しくて全部大好きな思い出なのですが、中学では体育祭、高校では約半年間の留学が一番の思い出です。体育祭では毎年ディスプレイ担当を務め、インパクトのある絵と迫力のある文字で赤組の得点に貢献し、中3の時には優勝できたことがすごく嬉しかったです。体育祭では先輩とのつながりや他クラスの友達とも仲良くすることができて、交流の幅も広がりました。高校では、国際教養コースに進学し、ニュージーランドへ約半年間留学しました。クラスメイト全員が異なる学校で自分自身の成長と向き合うことができた経験は本当に貴重でした。しかし、3ヶ月くらい経つとみんな寂しくなり始めてよく連絡を取るようになったりして、離れていても楽しかった話や悩みを共有したりして絆がめっちゃくちゃ強いクラスになりました。一緒に楽しい時間も辛い時間も3年間共有できた GLAC のメンバーが本当に大好きで、卒業してもずっと繋がってたいです。

茨中・茨高のいいところは、先生たちのサポートが手厚いこと、そして中学生のうちから行事を通して仲良くなった頼れる優秀な先輩がいることです。なので ICU(国際基督教大学)の総合型選抜を受ける際も、先生方、先輩方には志望理由書を何度も添削していただいたり、面接練習では厳しい表情をしながら的確なアドバイスやメンタルケアをしていただきました。ICU に入学予定の他校の友達に聞いたら、「学校だけで合格できるわけないじゃん、流石に塾の対策授業とってたでしょ?」と聞かれましたが、もちろん答えは「NO」です。茨高では可能でした。先生たち、そして先輩方のサポートが手厚く優秀だからです。生徒一人ひとりの合格に向かってこれだけ真剣に向き合ってくれる学校は茨中・茨高しかないと思います。

私は、国際教養コースでの経験を通して得た「行動力」を ICU でも活かし、私自身が学びたいこと、したいことに全力で取り組んでいきたいと思っています。茨中・茨高の建学の精神である「報恩感謝」と ICU の「世界へと貢献する人材を目指す」という使命には「今度は私が誰かを幸せにする、笑顔にする」という意味が共通して含まれていると考えます。この6年間支えてくださった全ての人に感謝をし、今度は私が誰かを支えられるように、笑顔にできるように、ICU でたくさん学び、自ら考え、そしてそれを社会のために実行していきたいです。